

企業スポーツにおけるゼネラルマネージャー、スタッフの重要性 Importance of general manager and staff in company sports club

1K03B082-9

後藤有矢

指導教員 主査 中村好男 先生 副査 原田宗彦 先生

【緒言】

スポーツチームの運営には、二つのカテゴリーがある。一つはクラブの選手を直接、サポートする側である。これには、コーチや監督、栄養士やトレーナー、また施設管理といった人材が含まれる。もう一つは、そのチームの運営に携わる人材である。チームの財務や広告、プロモーションなど行うスタッフである。スポーツ界におけるゼネラルマネージャー（GM）は、こういった人事や営業などのチーム運営を取り仕切る、球団経営の総責任者である。その仕事内容はチームによって異なることも多いが、一般的にはチームの強化・補強、球場運営、マスコミへの広報活動などを行い、球団全体を管理することである。その考え方でチーム全体の特色も変わってしまうほど、GMの影響力は絶大である。チームの経営陣にとって、GM 人事こそが最も重要な課題だといっても過言ではないだろう。しかし日本において、GM という存在はまだまだ一般化されたものではない。そもそも、GM だけでなくその元で働くスタッフすら、満足に確保できていないのが現状である。ここで、昨今企業スポーツが衰退してきた原因を考えてみたい。概ね、この問題の原因として取り上げられるのは「日本経済の衰退」である。バブル崩壊後、日本経済は確かに低迷した。その中で企業は多くのリストラ、経費削減を行ってきたのである。企業が所有するスポーツチームにも、当然その波は押し寄せてきた。その頃からスポーツ日本の企業スポーツは衰退の一途を辿っている。勿論、景気の悪化が多く企業のスポーツチームを休廃部に追い込んだ大きな理由である。しかし、日本の景気は徐々に回復し 2006 年現在では過去の三大景気に並ぶほどとなっている。しかし、企業スポーツチームの活動が再開した、という話は中々聞かない。

プロ、企業スポーツを含め、地域密着型スポーツクラブの普及に関しても、より日本人がスポーツ出来る環境を整える必要があるのではないかと。特に企業スポーツは優れた選手を輩出する、言わばスポーツ界を支える屋台骨である。それらをうまくマネジメントし、企業にとって有用な組織となりえるためにも、日本でスポーツ界の GM やマネジメントスタッフを育てる環境をもっと作ってゆくべきではないのか。

【研究方法】

企業がスポーツ組織を所有することに対してインセンティブを感じてもらうこと、スポーツ組織のマネジメントを行える人材を養成すること、実際に GM やスタッフによって行われた戦略的マネジメントによって、いくらかのスポーツ組織が成功例を生み出すことが企業スポーツの再活性化への鍵ではないかと考えた。特に、GM や専門的な知識を持ったスタッフを養成し配置すること、またスポーツ組織マネジメントのナレッジスタンダード化を図ることがもっとも重要であると考えた。そこでスポーツ GM の養成の実態を調べるため、現在実際にスポーツ組織の GM 要請講座を実施している団体に調査の依頼をした。また海外の企業スポーツクラブの運営方法と比較検討した。

【結果と考察】

調査の結果、専門的なスタッフ、GM を配置することで・スポーツ組織のマネジメントに長けた人材を養成し、それらの人材が実際に現場でチームの戦略的な経営を行うことでチームが独立して採算を合わせられるようになり、企業側への負担が小さくなる・戦略的なマネジメントを導入することによって企業が戦略的にチームを自社のブランディングに行かせるようになる・地域社会と密接に連携を取ることで豊かなスポーツ文化を醸成でき、なおかつチームが効率的に運営可能になるということがわかった。同時に JOC などがこういったマネジメントの場面で汎用的に採用が可能なスタンダードなナレッジを、海外での成功例を参考にしながら、国内でのノウハウも蓄積し、作成することも重要である。同時に、企業側とクラブ側の意思疎通を十分に行い、企業がこういったマネジメント体制を導入する姿勢が最も重要である。現在、企業側がスポーツ組織側へ好意的ではない。それが企業スポーツクラブの衰退の原因である。それによって、スポーツ組織側へ優秀な社員を中々配置しないという現状がある。せっかく優秀な GM を育成したとしてもそれが採用されなかったり、組織内での発言力を持たなければ組織の改革の見込みはない。